

# 現代中国語における“还是”と“或者”の交替現象\*

伊 藤 さとみ

## 1. はじめに

中国語の選択を表す接続詞“还是”と“或者”は、以下のように、前者が選択疑問文を作り、後者が選択平叙文を作る。

(1) 你去, 还是他去? (房2008)

(君が行きますか、それとも彼が行きますか。)

(2) 你去, 或者他去。 (房2008)

(君が行くか、または彼が行きます。)

この区別は、主節では明らかであるが、いくつかの環境においては、“还是”と“或者”が交替しても、意味の大きな変化をもたらさないことがある。

(3) 去上海还是去广州? 还是 / 或者上海广州都去? (肖・张2006)

(上海に行きますか、それとも広州にいきますか。それとも／または上海と広州どちらも行きますか。)

(4) 我还没决定你去还是 / 或者他去。 (房2008)

(君が行くか彼が行くか、私はまだ決めていない。)<sup>1)</sup>

(5) 你去还是 / 或者他去都可以。 (房2008)

(君が行っても彼が行ってもどちらでもいいです。)

(6) 不论天好还是 / 或者坏, 浪低还是 / 或者浪高, 他们总是穿着游泳衣,

\* 本研究は、科研費22520393の助成を受けたものである。なお、本研究の内容は、2013年中国語学会にてポスター発表を行い、参加者の方から有益なコメントをいただいた。さらに、お茶の水女子大学のゼミ生のみなさんには、例文調査に協力していただいた。コメントくださった方、ご協力いただいた方に心からお礼申し上げます。

迈着大步走向海滩。(房2008)

(天氣が好かろうと悪かろうと、波が低かろうと高かろうと、彼らはいつも水着を着て、大股で海に向かって歩いている。)

(3) では、“还是”と“或者”が疑問文の後に現れ、別の選択肢を追加的に述べるために用いられている。(4) では“没決定”の目的語節、(5) では述語に“都”を持つ文の主語節、(6) では“不论”という接続詞の導く節において二つ以上の選択肢を提示するために用いられている。いずれの場合にも、“还是”と“或者”がニュアンスの違いこそあれ、大きな意味の変化をせずに交替することができる。本稿では、この二つの接続詞の交替が許される環境はすべて命題の集合を表すという共通点があることを示し、両者の違いが中和される仕組みを提案する。なお、この論文では“或”、“或是”、“抑或”など選択平叙文を作る類似の表現をすべて“或者”で指すことにする。

## 2. “还是”と“或者”の交替する文脈

“还是”と“或者”の交替する文脈には、大きく分けて疑問の作用域と、普遍量子の作用域の二つがある。疑問の作用域としては、先行する疑問文や不確定なことを述べる文に選択肢を追加する場合と、疑問節をとる否定形動詞の補文に選択肢を提示する場合とがある。普遍量子の作用域としては、“都”や“总”などの普遍量化をあらわす副詞を伴う文の主語節で選択肢を提示する場合と、“无论”、“不论”、“不管”という接続詞の導く節で選択肢を提示する場合がある。以下、順に見ていく。

### 2.1 疑問の作用域

#### 2.1.1 選択肢の追加

追加的に選択肢を述べる場合に、“还是”でも“或者”でも可能であることは、邢福义1993や肖任飞・张芳2006ですでに指摘がある。邢福义1993は、選択疑問文群(“选择问的句群”)という文法的範疇を提案し、“吗”や“呢”という語気助詞の組み合わせにより、以下の四種類の選択疑問文群があることを指摘し

た。なお、この分類は、“吗”や“呢”という語気助詞が明示的に現れている例のみを対象にしたものではなく、この語気助詞を補うことができるという可能性に基づいた分類である。

- (7) “X吗？或者Y吗？”：需要打针吗？或者，需要吃点药吗？

(注射する必要がありますか、または薬を飲む必要がありますか。)

- (8) “X呢？或者Y呢？”：要不要打针呢？或者，要不要吃点药呢？

(注射しないといけませんか、または薬を飲まないといけませんか。)

- (9) “X吗？还是Y呢？”：需要打针吗？还是需要吃点药呢？

(注射する必要がありますか、それとも薬を飲む必要がありますか。)

- (10) “X呢？或者Y吗？”：要不要打针呢？或者，先吃点药可以吗？

(注射しないといけませんか、またはまず薬を飲んでもみてもいいですか。)

このうち、前二つの形式は、前後の文が両方とも形式的に類似した疑問文であり、“或者”が二つの疑問文を対等な関係で接続する働きをしている。後二つの形式では、前の文Xが主であり、“还是”と“或者”がともに選択肢を追加する働きをしている。ただし、“或者”を使う場合は、前の節の内容を否定した上でさらなる推測を表現する点に特徴がある。上記の分類では、“吗”や“呢”という語気助詞の組み合わせがそれぞれ異なっているが、これらの語気助詞は、(3)の例のように、文脈によっては省略可能なため、(9)と(10)の構文の違いは、“还是”と“或者”の交替と同じことになる。肖任飞・张芳2006もこの分類を受け、“还是”と“或者”の用法を比較し、接続詞の前のポーズが“还是”の方が長いこと、疑問の焦点が“还是”の場合は前の文、“或者”の場合は後の文であること、“或者”の方が前の節の内容を強く否定するニュアンスがあることを観察している。

追加的選択肢を表す“或者”は、平叙文の後や、独立した文の文頭にも使われる。邵敬敏1996は(11)と(12)のように“难道”や“也许”のような反語や不確定を表す表現を含む平叙文の後に、“或者”で選択肢を追加する例を挙げ、主観的推測の色合いを表すことを指摘している。この「主観的推測」が具体的

に何を指すのかの説明はないが、邢福义1993や肖任飞・张芳2006の指摘と同じく、先行する節の内容を否定した上での推測を指していると思われる。また、张晋涛2008は文頭に“或者”がある例(13)を挙げて、提案・相談の語気を表すこともあると指摘している。この語気も、選択肢を追加する働きから派生したと考えられる。

- (11) 难道可以当着外人的面儿责备丈夫，或者演戏？(邵1996)

(他人の前で夫を責めてよいものか、または演技なのか。)

- (12) 也许是来向你讨教费尔巴哈的唯物主义？或者来请你讲解《共产党宣言》？(邵1996)

(あなたにフォイエルバッハの唯物主義を教えてもらいに来るかもしれません。またはあなたに『共産党宣言』を解説してもらいましょうか。)

- (13) 或者剪一个男式短发？(张2008)

(または男のような短髪に切ったらどうか。)

“还是”と“或者”が選択肢を追加する働きをするのは、是非疑問文(9)や正反疑問文(10)、反語や不確定を表す表現を含む平叙文(11)(12)だけでなく、疑問詞疑問文の後でも見られる。(14)では“哪位”、(15)では“甚么(什么)”という疑問詞を使った疑問文の後で“还是”と“或者”が現れており、どちらでも容認される。

- (14) 不知哪位高手突发奇想，还是/或者受日本车『公爵王』的启发，猛地一拍大腿，有了！就叫『××王』吧。(4/5-交替可、1/5-还是)<sup>2)</sup>

(どの名人が突然奇想を得たのか、それとも／または日本車『公爵王』に啓発されたのか、ポンと太腿を叩き、あった！『××王』だと叫んだのだろう。)

- (15) 雁冰先生始终敛缩地坐在一边，微笑着。我不记得他说了甚么，还是/或者做了甚么。(4/5-交替可、1/5-或者)

(雁氷先生は終始縮こまって端に座り、微笑んでいた。私は彼が何を言ったのか、それとも／または何をしたのか、覚えていない。)

以上から、疑問文や不確定な事柄を表す文に後続して追加的選択肢を導入する際には、推測や提案の色合いを強く出したい時に“或者”が好まれるという違いはあるものの、“还是”でも“或者”でも使うことができると言える<sup>3)</sup>。

### 2. 1. 2 疑問節補文

一部の節目的語をとる動詞の否定形において、その補文に“还是”と“或者”の交替が観察される。CCLの検索では、“没有決定”、“不知（道）”、“不问”、“不记得”といった動詞の補文に“还是”も“或者”も使われているのが観察された。ただし、聞き取り調査では“还是”が好まれることが分かった。以下の例はすべてもともと“或者”だが、聞き取り調査では“还是”を選ぶ話者が多い<sup>4)</sup>。

- (16) 江华还没有决定跟他去还是 / 或不去；孟大环仰起头看看江华严肃地说：“嘿，想起那日子真是轰轰烈烈——。(3/4- 还是、1/4- 交替可)

(江華は彼と行くか行かないかまだ決めていなかった。孟大環は頭を上げて江華を見て「おい、あの頃本当に勢いがあったのを思い出せよ。」と真剣に言った。)

- (17) 潮湿的空气中弥漫着淡淡清香，吸一口沁人心脾，却不知是雨香、树香  
还是 / 抑或花香。(4/5- 还是、1/5- 或者)

(湿った空気の中に淡いすがすがしい香りが満ちており、吸い込むと体にしみわたったが、雨の香りか、木の香りか、花の香りかは分からなかった。)

- (18) 《新著国语文法》认为“文法中分别词类，是把词作单位；不问他是一个字还是 / 或几个字，只要是表示一个观念的，便叫做词”(5/5- 还是)

(『新著国語文法』は「文法中で品詞を区別するには、語を単位とする。それが一字であっても、いくつかの字であっても、一つ概念を表してさえいれば、語と称する」と考えている。)

- (19) 船上，清华同学印行《海上》刊物，由我主编，登出朱湘一诗，但已不记得是那首：《泛海》还是 / 或《洋》？今知为前者。(5/5- 还是)

(船上で、清華の同級生が『海上』という刊行物を発行して、私を中心

となって編集し、朱湘の詩を一つ載せたが、それがどれだったか覚えていない：『汎海』だったか『洋』だったか。今前者だと知った。）

これらの動詞は、補文に疑問節を取ることができる。例えば、補文中に疑問詞が現れたとき、以下のように疑問の意味を持つ。

- (20) 我还没有决定我要做什么。我想要试试绘画。

（私は何をするかまだ決めていなかった。私は絵を試してみたかった。）

- (21) 虽然比赛即将开始,但曾长期排名世界第一的小威廉姆斯还不知她的对手是谁。

（試合はもうすぐ始まろうとしていたが、長らく世界ランキング一位だったウィリアムズはまだ彼女の相手が誰なのか知らなかった。）

- (22) 他从不问在钟家发生过什么事,从不提任何与钟家有关的人物。

（彼は鍾家に何が起こったか聞かなかったし、鍾家と関係のあるどの人も話題にしなかった。）

- (23) 现在大家都不记得是谁赢得了当天的比赛,人们只记得:那天,塞纳离开了我们。

（今ではみんな誰がその日の試合に勝ったか覚えていない。人々が覚えているのは、その日、セナが私たちのもとを去ったことだけである。）

同じように補文をとる動詞の否定形であっても、疑問節を補文にとらない場合は、“还是”と“或者”の交替は見られない。例えば、“不觉得”、“不认为”、“不相信”、“不希望”などの動詞の補文では、以下のように疑問詞が不定の解釈をされ、補文は非疑問節である<sup>5)</sup>。

- (24) 一旦从我们的生活中隐失甚至消失,我们竟不觉得真的缺少了什么。

（一旦私たちの生活から見えなくなったり失われたりすると、私たちは本当に何か欠けたとは意外と思わないのだ。）

- (25) “我并不认为我做错了什么,但我相信我的辞职对于足总摆脱目前困境很有必要。

(私は何か間違えたとは思わないが、私の辞職がサッカー協会の目下の苦境を切り抜けるのに必要であると信じている。)

- (26) 我不相信谁有本事能把她抢去！

(私は誰かが彼女を奪い取れる力があるなんて信じない！)

- (27) 不，我是日本人，永远是日本人，我并不希望谁格外的原谅我。

(いや、私は日本人だ、永遠に日本人だ、私は誰かが特別に私を許すことを望んでいない。)

これらの動詞をCCLで検索してみても、補文に“还是”が現れる例は見つからなかった。また、調査でも“还是”よりも“或者”が好まれている<sup>6)</sup>。

- (28) 无法分辨现在到底是白天还是黑夜，抑或已经过了许多天。他一点也不觉得饥饿或疲倦，心中只是充满了不停转动的思绪。(3/5-或者、1/5-还是、1/5交替可)

(今昼なのか夜なのか、すでに何日も経ったのか分からなかった。彼はちっとも飢えや疲れを感じず、心の中は止まることのない考えで一杯だった。)

- (29) 他对自己接受的高等教育很自负，但并不认为所有的智慧都集中在哈佛或东部的其他学校。(4/5-或者、1/5交替可)

(彼は自分が受けた高等教育にプライドを持っていたが、すべての知恵がハーバードや東部のその他の学校に集中しているとは考えていない。)

- (30) 我们男人总是透过一层善意的薄雾来观察我们自己，我们从不相信自己像别人说的那样肥胖或那样骨瘦如柴。(5/5-或者)

(我々男はいつも善意の薄い霧を通して自分自身を観察しており、自分が他の人が言うように太っているとも骨と皮ばかりにやせかけているとも信じないのだ。)

- (31) 球员打入NBA，为国争光。但篮协跟下面的球队却不这么想。球队不希望他们的球员成为明星或超级巨星。(5/5-或者)

(選手はNBAに入って国の榮譽のために戦う。しかし、バスケット

ボール協会とその下のチームはそうは考えていない。チームは彼らの選手がスターやスーパースターになることを望んではない。

先に述べたように、“还是”と“或者”の違いは、前者が疑問文、後者が平叙文を作ることである。この特性は、補文であっても保持され、規範文法的に言えば、疑問節をとる動詞“没有决定”、“不知（道）”、“不问”、“不记得”の補文には、疑問文を作る“还是”が使われ、そうでない動詞“不觉得”、“不认为”、“不相信”、“不希望”の補文には、平叙文を作る“或者”が使われると言えるだろう。ところが、実際の用例では、疑問節をとる否定形動詞の補文において、“还是”の代わりに“或者”を使う例が見られる。そこで、“还是”と“或者”が交替し得るのは、疑問節を目的語にとる否定形動詞の補文においてであるとまとめられる。

## 2.2 普遍量子子の作用域

### 2.2.1 述語に“都”を持つ文の主語節

述語に“都”を持つ文の主語節の一部でも、“还是”と“或者”が交替するのが観察される。(32) はもともと“或者”を使った例、(33) はもともと“还是”を使った例だが、どちらの接続詞でも可と答えた話者の割合が多かった。(34) はもともと“或者”を使った例だが、どちらの接続詞でも可とする話者と“或者”を選ぶ話者が拮抗する結果になった。

(32) 实物商品则不然, 例如, 一台彩电, 甲买还是 / 或乙卖都是一种价格。

(4/4- 交替可)

(実際の商品はそうではない。例えば、一台のカラーテレビは甲が買っても乙が売っても一つの価格である。)

(33) 最终德国在金牌总数上赢我们还是 / 或输我们都是很正常的, 关键是中国体育代表团要在雅典奥运会上反映出自己的精神面貌和技术水平。(3/4- 交替可、1/4- 或者)

(最後にドイツが金メダルの総数で我々に勝っても負けてもどちらもよくあることであり、大事なのは中国代表チームがアテネオリンピック



クで自分の精神のあり方と技術レベルを示したことにある。)

- (34) 所以只要有一个群众演员做错了动作, 说错了台词, 跑快了还是 / 或是跑慢了, 都要重新来。(2/4 交替可、2/4 或者)

(よって1人のエキストラが動作を間違えても、せりふを間違えても、早く走りすぎても遅く走りすぎても、いつもやり直した。)

ただし、述語に“都”があればいつも“还是”と“或者”が交替できるわけではない。以下の例では、“还是”ではなく“或者”のみが可能である。

- (35) 我吃面条或者米饭都可以。(候2004)

(私は麺類でも米飯でもどちらでもよい。)

- (36) 利用电来照明或使电风扇转动, 都需要长时间持续存在的电流。

(電気を利用して照明をつけるにしろ、電気に扇風機を回させるにしろ、長い時間持続して存在する電流が必要である。)

- (37) 过久的站立或静坐都会使少年儿童의肌肉和神经疲劳, 所以要注意动静结合。

(長すぎる起立や静座は青少年兒童の筋肉と神経を疲れさせるので、動静を組み合わせることに注意する必要がある。)

どちらの接続詞でも可と答えた話者の割合の高い (32) - (34) と交替できない (35) - (37) を比較すると、前者では、それぞれの選択肢がより命題として独立し得るのに対し、後者では、選択肢が名詞句や動詞句であり、完全な命題として機能しにくいという違いがある。命題か命題ではないかの判断には、省略された要素の復元度に関わる個人差もあり、そのために (36) のような動詞句の選択肢では、どちらの接続詞でも可とする話者とできないとする話者が拮抗する結果になったのではないかと思われる。以上から、“还是”と“或者”が“都”の作用域内で交替できる条件に、各選択肢が命題として捉えられるという点が挙げられる。

## 2. 2. 2 “无论”、“不论”、“不管”の導く節

“无论”、“不论”、“不管”の導く節（以下“无论”節と略す）では“还是”と“或者”

はしばしば入れ替わる。尤俊成1990は以下の例を挙げ、“还是”と“或者”が交替しても、“还是”の方が“或者”よりも強調の意味が強いという違いはあるが、ともに選択関係を表すと言う点では意味に変化はないと述べている。

- (38) 无论(是)守旧的传统观念, 还是/或者单纯的艺术观点, 都无法全盘否定文明戏在我国戏剧发展史上的地位。

(保守的な伝統的観念であれ、単純な芸術的観点であれ、新劇の我が国の演劇の発展史上での地位を全面的に否定することはできない。)

- (39) 他想找到失败的根源, 可惜无论(是)他还是/或者作者都无法回答这一问题。

(彼は失敗の原因を探そうとしたが、残念なことに彼も作者もこの問題には答えることができなかった。)

“无论”節における接続詞の多様性については、杜支万1995、宋玉柱1995が規範文法の立場から、李丹・赖玮2011が論理学的観点から、由丽萍・厉零隼2003が自然言語処理の立場から、傅惠钧2011が歴史的観点からそれぞれ言及しているが、いずれも“还是”と“或者”のどちらの例も挙げており、特に両者の意味の違いについては述べていない。唯一両者の違いを論じたものには、侯瑞芬2004があり、以下の指摘をしている。

I. 選択肢が複数からなるとき、“或者”はふさわしくない。特に、選択肢が連続する関係や数字のとき、“还是”は初めと終わりの二つの点を結びつけて一定の範囲を表し、選択肢の集合を表すことができるが、“或者”はできない。

- (40) 女人无论十七岁还是七十岁都渴望被呵护。

(女性は、十七歳から七十歳まで、みないたわりを求めている。)

II. 選択肢が二つだけであり、この二つが対立関係にないとき、“还是”はふさわしくない。

- (41) 没收财产的判决, 无论附加适用或者独立适用, 都由人民法院执行; 在必要的时候, 可以会公安机关执行。

(財産没収の判決は、付带的に適用するのであれ、それだけ適用するのであれ、すべて人民裁判所で執行する; 必要なときのみ、警察機関

で執行する。)

Ⅲ.“无论”節の中は“是……还是……”形式は可能だが、“是……或者……”“或者……或者……”形式は許されない。

(42) a. 无论是改革还是发展, 都要通过人来实现。

(改革であれ、発展であれ、すべて人を通して実現しなければならない。)

b.\*无论是/或者改革或者发展, 都要通过人来实现。

Ⅳ. 動詞-目的語構造、介詞-目的語構造、節を結びつけるとき、“或者”はふさわしくない。

(43) 无论从现实的需求还是/\*或者从发展的战略来考虑, 也无论从市场的需求还是/\*或者从技术基础来看, 我们都完全有必要、有条件建设我们的高速信息网络。

(現実の需要から考えても、発展の戦略から考えても、市場の需要から見ても、技術の基礎から見ても、我々は高速情報ネットを建設する必要と条件を完全に備えている。)

(44) 无论国家加强对企业环境保护工作的考核与评定, 还是/\*或者企业自身加强污染源控制管理, 都需要完善污染物控制指标体系和方法, ……。

(国家が企業の環境保全事業の審査と評定を強化しても、企業自身が汚染源のコントロール管理を強化しても、汚染物のコントロール指標体系と方法を万全のものにする必要があり、……。)

だが、候瑞芬2004の説明には、二つ問題がある。一つ目に、Ⅲの接続詞の組み合わせに関する指摘を除き、他は「不宜」(ふさわしくない)」という表現を使っていることから分かるように、規範文法的な記述である点が挙げられる。二つ目に、選択表現の形式として“或者”に限定しており、“或是”、“或”などのほかの形式を排除している点が挙げられる。このため、実際の言語使用状況を正しく捉えられず、以下のように反例が存在する。

I への反例として、選択肢が複数からなるときに“或者”を用いる例はある。また、選択肢が連続する関係や数字のときでも、“或者”を使って初めと終わ

りの二つの点の間の一定の範囲を表す例もある。

- (45) 要办好一个学校，无论是大学、中学、小学，或是职业学校，都需要具备一定的条件，比如：要有一个好的领导班子，素质比较高的师资队伍，一定的先进设备，结合世纪的有水平的教材等。

(一つの学校をうまく経営するには、大学であれ、中学校であれ、小学校であれ、専門学校であれ、一定の条件を備えていなければならない。例えば、よい経営陣があり、質のかなり高い教師陣があり、一定の先進的設備を備え、時代にあった、レベルの高い教材がある、などである。)

- (46) 但是接近您，不由得迷上您那股特殊的气质，那种气质是教养、是修养、是发自内心的，这种气质能使人真正的‘高贵’，能使人无论十八岁或八十岁都觉得美丽。”

(でもあなたに近づき、あなたのその特殊な気質に思わず魅入られました。その気質は教養か、修養か、内心から発せられるものなのか、この気質は人を本当に「気高く」させ、十八歳から八十歳までみな美しいと思わせる。)

Ⅱへの反例として、選択肢が二つだけであり、この二つが対立関係にないときでも、“还是”を使う例が見られる。以下の例では、企業の状態について他にも様々な状態が考え得るので、対立関係にある選択肢ではないと思われるが、“还是”を用いている。

- (47) 这几年，无论是企业在困境中徘徊，还是在逆境中崛起，我常常思考这样一个问题：企业最根本的基础是什么？

(この数年間、企業が苦境の中を行ったり来たりしようと、逆境から抜け出そうとしようと、私は常に企業の最も根本的基礎は何かという問題を考えていた。)

Ⅳへの反例として、“无论”節の中で“或者”が動詞-目的語構造を結びつける場合がある。また、“或者”が介詞-目的語構造を結びつける例には、侯瑞芬2004自身が別の箇所ですげた(49)の例が挙げられる。節を結びつける例は、

冒頭の(6)がある。

(48) 无论用什么材料, 或做成什么样式, 只要是镜子, 则都能显影。

(どんな材料を使おうとも、どんなデザインに作ろうとも、鏡でありさえすれば、影を映すことができる。)

(49) 无论在航行中或者在航程结束后发生的船舶或者货物因迟延所造成的损失, 包括船期损失以及其他间接损失, 均不得列入共同海损。(候2004)

(航行中または航程が終わってから発生した船舶または貨物の遅延により生じた損失は、出航日の損失及びその他の間接的損失も含めて、共同海損に入れてはいけない。)

以上挙げた候瑞芬2004 に対する反例のいくつかは、接続詞の前にコンマ、つまりポーズがあったり、“或是”, “或” など、“或者” の別の形式であったりしている。ポーズなしの“或者”に限定して判断するならば、候瑞芬2004の指摘は正しいかもしれないが、実際の言語使用状況を捉えているとは言い難い。本稿では、規範文法の立場ではなく、言語使用の実態に基づいて“还是”と“或者”の交替現象を考察する。

### 3. “还是”と“或者”の交替する仕組み

前節で“还是”と“或者”が交替する文脈には、疑問の作用域と普遍量子子の作用域があることを見てきた。一見異なる文脈に見えるが、共通しているのは命題集合を表す環境である点である。この節では、これらの文脈がすべて命題集合を表す環境であることを示し、それらの環境における“还是”の働きと“或者”の変化について述べる。

#### 3.1 “还是”の働き

“还是”は疑問文を作ることは既に述べた。そこで、まず、疑問文の意味について考察する。Karttunen1977によると、疑問文とは答えの候補となる命題の集合である。是非疑問文や正反疑問文であれば肯定命題と否定命題の集合、疑問詞疑問文であれば、疑問詞に可能な候補を入れ替えた命題の集合であると

考えられる。そこで、“还是”が疑問文を作る場合も、“还是”の結びつける二つの選択肢が命題集合を表し、その命題集合から一つを選ぶよう聞き手に要求していると考えられる。

(50) a. 你去, 还是他去? = (1)

b. {你去, 他去}

では、前節で見た各環境における“还是”の働きを見てみよう。選択肢の追加では、“还是”は先行する疑問文が表す命題集合に、さらにもう一つ命題を追加して新たな命題集合を作る働きをしている。

(51) a. 去上海还是去广州? 还是上海广州都去? = (3)

b. {我们去上海, 我们去广州, 上海广州我们都去}

疑問節補文では、“p 还是 q”が命題集合を形成し、例えば次のような“没決定”の補文であれば、その命題集合のうちどれにするか決定していないという意味になる。

(52) a. 我还没决定你去还是他去。 = (4)

b. 我还没决定{你去, 他去}

普遍量子“都”もその作用域として集合を必要とする。例えば、個体を量化する場合、量化される要素は個体の集合を表している<sup>7)</sup>。同様に“还是”が“都”の作用域に現れた場合、“p 还是 q”が命題集合を与え、“都”に量化される。

(53) a. 学生都来了。(学生はみな来ました。)

b.  $\forall x \in D_{\langle e \rangle} [x \in \{x: \text{学生}(x)\} \rightarrow \text{来了}(x)]$

(54) a. 你去还是他去都可以。 = (5)

b.  $\forall p \in D_{\langle b \rangle} [p \in \{你去, 他去\} \rightarrow \text{可以}(p)]$

量化されるのは、命題だけではない。以下のような例では、状況が量化される。その場合も、“p 还是 q”からなる命題集合に基づき、それぞれの命題が真であるような状況の集合として捉えることができる<sup>8)</sup>。

(55) a. 一台彩电, 甲买还是乙卖都是一种价格。 = (32)

b.  $\forall s \in D_{\langle s \rangle} [s \in \{s: \text{甲买一台彩电}(s), \text{乙卖一台彩电}(s)\} \rightarrow \text{一台彩电是一种价格}(s)]$

“无论”節も、主節の述語に“都”や“总”のような普遍量子子が現れる。従って、上述の普遍量子子の作用域の分析に準ずることができる。ただし、“无论”のある場合、“还是”の結びつける選択肢は命題でなくてもよい点で普遍量子子のみより制約が緩い。

- (56) a. 无论是他还是作者都无法回答这一问题。 = (42a)  
 b.  $\forall x \in D_{\langle e \rangle} [x \in \{\text{他}, \text{作者}\} \rightarrow \text{无法回答}(x, \text{这一问题})]$

### 3.2 “或者”の働きと変化

“或者”は“还是”と違い、平叙文を作る。平叙文は、命題であり、命題集合ではない。従って、本来“还是”が使われるべき文脈に置かれると、求める意味が得られなかったり、派生が止まってしまったりする。

- (57) a. 去上海还是去广州？或者上海广州都去？ = (3)  
 b.  $\{\text{我们去上海}, \text{我们去广州}\} \vee \text{上海广州我们都去}$   
 (58) a. 我还没决定你去或者他去。 = (4)  
 b. 我还没决定（你去 $\vee$ 他去）  
 (59) a. 你去或者他去都可以。 = (5)  
 b.  $\lambda X \forall p \in D_{\langle t \rangle} [p \in X \rightarrow \text{可以}(p)]$ （你去 $\vee$ 他去）

(57b)は、“或者”以下が疑問の意味を持たなくなる。(58b)では、派生は終わっているように見えるが、“没决定”という動詞が目的語に対して持つ選択制限を満たしていないため、解釈ができなくなってしまう。(59b)でも、“你去或者他去”は集合を与えることができず、派生が止まってしまう。以上の派生を成り立たせるには、“p或者q”を命題から命題集合に変える必要がある。そこで、“p或者q”に含まれている各選択肢を切り離して命題集合に作り変えるタイプシフトが行われる。

- (60) タイプシフト  $D_{\langle t \rangle} \rightarrow D_{\langle t, t \rangle} : p \vee q \rightarrow \{p, q\}$

“无论”節に関しては、“或者”で結び付けられる要素が命題とは限らず、名詞句や動詞句など様々なものがある。上述のタイプシフトそのものは使えないが、以下のような集合を作る操作が働いていると思われる。

(61) タイプシフト  $D_{\langle e \rangle} \rightarrow D_{\langle e, t \rangle} : x \vee y \rightarrow \{x, y\}$

#### 4. まとめ

以上、“还是”と“或者”の交替する文脈には、疑問の作用域と普遍量子子の作用域があり、いずれも命題集合という特性を持つことを見た。さらに、主節ではないという条件の下で、命題集合を作る“还是”の代わりに、命題を作る“或者”がタイプシフトを経て使われ得ることを示した。ただ、タイプシフトを誘発する要因については、本稿では考察することができなかったため、今後の課題としたい。

#### <注>

- 1) “还是”は「それとも」、「或者」は「または」と訳されるが、(4)～(6)のような例では日本語に訳出すると不自然になることがある。その場合は、「～か～か」、「～ても～ても」、「～ろうと～ろうと」、「～あれ～あれ」、「～にしろ～にしろ」などの訳を当てている。
  - 2) 括弧内の分数は、チェックしたインフォーマントの総数における交替を可とした人数である。以下同じ。調査によってインフォーマントの総数が4人の場合と5人の場合がある。
  - 3) 邵敬敏1996は“还是”を用いた選択疑問文に後続して“或者”が現れる例について、前の選択肢群を“还是”で結びつけ、最後の選択肢を“或者”で結びつけることによって、前者と後者の属する階層が異なることを示すと述べている。
- (1) 她的目光冷冷的，是愤恨，还是同情，或是可怜？(邵1996)

(彼女の目は冷たかった。それは憤慨か、同情か、または哀れみなのか。)

一方、張晋涛2008はそのような例があることを認めつつも、“还是”の重複をさけ、文になめらかさを与えるために“或者”を使うという、修辞学的な理由による場合もあると指摘している。修辞学的理由で“或者”が使われている場合には、次のように“或者”を“还是”に変えることができる。



- (2) 是事情太多太杂, 还是精神不济, 照顾不到, 还是/或者是有别的缘故? (张2008)

(それは職務が多すぎて複雑すぎたのか、それとも精神が混乱していき届かなかったのか、それとも／または別の理由なのか。)

本文で述べたように、“或者”が選択肢の追加を行うために使われるとき、先行する選択肢の否定というニュアンスを持つ。そのため、自然と先行する選択肢とは異なる観点や種類の選択肢を導入する例が多く、それが階層の違いとして感じられる原因ではないかと思われる。そこで、本稿では、“还是”と“或者”の使い分けは階層の違いを表示することを目的としてはいないと考える。

- 4) 以下のように、“不知道”、“不记得”の補文で“或者”しか使えない例もあった。これは、一つは“任何”という量化詞の作用域内にあるため、もう一つは疑問文のあとの追加の選択肢の導入に使われており、先行する選択肢の否定を表す“或者”の方がたまたまその文脈に合うためと思われる。

- (1) 两名女孩的亲属表示,不知道她们参加了任何军事还是 / 或是政治行动。(5/5-或者)

(二人の女の子の家族は、彼女たちがいかなる軍事や政治の活動に参加していたか知らない、と言った。)

- (2) 那是个真实的声音, 一个熟悉的声音, 虽然他不得记得在哪听到还是 / 或是这个声音属于什么人。(4/5-或者、1/5-还是)

(それは本当の音だった。よく知っている音だった。彼はどこで聞いたのか、それとも／またはこの音がどんな人のものなのか覚えていなかったけれども。)

- 5) 否定の作用域にあるので、普遍量化的解釈になることもある。
- 6) ただし、一部の話者は“不觉得”“不认为”の補文での“还是”の出現を可とすることもあり、容認度は必ずしも一致しなかった。
- 7) Lin1998は“都”を分配子であると主張している。本稿の主張は、“都”が分配子であるか普遍量化子であるかに影響されないで、ここでは普遍量化子として説明する。

8) ここでは、 $P(s)$  は「命題  $P$  が状況  $s$  において真である」ことを表す。

<参考文献>

杜支万1995 <“无论”句隐含的选择意义>，《语文建设》第9期。房玉清2008《实用汉语语法》北京语言学大学出版社。

房玉清2008《实用汉语语法》北京语言学大学出版社。

傅惠钧2011 <“无论句”的选择性与关联问题> 张涌泉,张先亮主编《语言学研究论集》,上海世纪出版/上海古籍出版。

候瑞芬2004 <“无论……都……”中“或者”与“还是”的差异>，《北京教育学院学报》第18卷 第3期。

Karttunen, L. 1977. “Syntax and semantics of questions.” *Linguistics and Philosophy* 1.

李丹・赖玮2011 <无条件句列举式条件分句内部的逻辑语义关系>，《科学报刊》第8期。

Lin, Jo-wang 1998 “Distributivity in Chinese and its implications” *Natural Language Semantics* 6: 201-243.

邵敬敏1996《现代汉语疑问句研究》上海:华东师范大学出版社。

宋玉柱1995<“无论”偏句中的连词>，《语文建设》第11期。

肖任飞, 张芳2006<“p, 还是q?”与“p?或者q?”>，《中南大学学报(社会科学版)》Vol.12 No.5。

邢福义1993<选择问的句群形式>，《汉语学习》(60): 1-7。

尤俊成1990<“无论是A还是B, 都C”句型>，《语文学刊》第5期。

由丽萍・厉霁隼2003<“无论”类连词在句法分析中的标记功能>，《上海师范大学学报》第32卷第1期。

张晋涛2008<略论连词“或者”在疑问句中的使用>，《吉林师范大学学报》第3期。

<用例の出典について>

論文からの場合、例文の後に(著者の姓+年号)で記している。出典が記さ

## 現代中国語における“还是”と“或者”の交替現象

れてないものはCCLの検索で得られた例と検索で得られた例の一部を変えて  
4～5人のネイティブスピーカーに提示しチェックを経たものである。

(いとう さとみ)